

【共催】同志社大学 一神教学際研究センター  
日本オリエント学会  
同志社大学 神学部・神学研究科

## 公開講演会

# 古代メソポタミアの神話と宗教 —『ギルガメシュ叙事詩』の魅力を中心に—

### ● 講 師 ●

つきもと あき お  
月 本 昭 男 （立教大学文学部教授・日本オリエント学会会長）

### ● 日 時 ●

2009年2月28日（土） 午後2時～4時

### ● 場 所 ●

同志社大学 今出川校地 クラーク・チャペル

○入場無料・事前申込不要

○問い合わせ

同志社大学一神教学際研究センター(CISMOR)

TEL. 075-251-3972 E-mail: [info@cismor.jp](mailto:info@cismor.jp) HP: <http://www.cismor.jp/>

## 【プログラム】

- 1)講 演 月本昭男（立教大学教授・日本オリエント学会会長）  
「古代メソポタミアの神話と宗教  
—『ギルガメシュ叙事詩』の魅力を中心に—」

## 2)質疑応答

司会 越後屋 朗（同志社大学大学院神学研究科教授）



## 【講 師 紹 介】

### ■ 月本昭男(つきもと あきお)

1948 年、長野県生まれ。新島学園(群馬県安中市)卒業後、東京大学、ドイツ・テュービンゲン大学で宗教学、旧約聖書学、古代オリエント学などを専攻。

1981 年より立教大学勤務。現在、文学部キリスト教学科教授。

日本オリエント学会会長(2008～)、日本旧約学会会長(2006～)、イスラエルにおける日本聖書考古学遺跡発掘調査の団長(1998～)などをつとめる。

著書に『目で見える聖書の時代』(日本基督教団出版局)、『詩篇の思想と信仰』I、II(新教出版社)、『悲哀をこえて—旧約聖書における歴史と信仰—』(教文館)、『古典としての旧約聖書』(聖公会出版)、『創成神話の研究』(編著、リトン)他。原典訳に『ギルガメシュ叙事詩』(岩波書店)、『創世記』『エゼキエル書』(岩波書店)他。

## ギルガメシュ叙事詩略年表

於：同志社大学

月本昭男 28. 02. 2009

### <古代メソポタミア文明史概略>

|                   |                                                                                                              |
|-------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 前 3200 年頃         | シュメル都市国家の成立<br>灌漑農耕<br>原文字トークン (token) → 絵文字 → 楔形文字                                                          |
| 前 3000 年頃～2400 年頃 | シュメル初期王朝時代<br>ギルガメシュ：前 2600 年頃に実在したウル<br>の王 (シュメル語 Bilgamesh)、前 2450 年頃の<br>シュルツパク文書の神々一覧に神として言及             |
| 前 2450 年頃～2350 年頃 | アッカド王朝時代                                                                                                     |
| 前 2200 年頃～2000 年頃 | 新シュメル時代：ウル第 3 王朝期<br>シュメル語のギルガメシュ伝承                                                                          |
| 前 2000 年頃～1500 年頃 | 古バビロニア時代<br>イシン・ラルサ時代 (～1800 年頃)<br>アッカド語版ギルガメシュ叙事詩成立<br>古バビロニア版 (Gilgamsh)<br>バビロン第 1 王朝期 (ハンムラビ王：1750 年前後) |
| 前 1500 年～1000 年頃  | 中期バビロニア／アッシリア時代<br>ギルガメシュ叙事詩の普及<br>標準版ギルガメシュ叙事詩                                                              |
| 前 950 年頃～540 年    | 新アッシリア時代 (～612 年)<br>ニネヴェ版ギルガメシュ叙事詩<br>新バビロニア時代 (～540 年)                                                     |
| 前 539 年～333 年     | アケメネス朝ペルシア<br>徐々に楔形文字からアラム文字に移行                                                                              |
| 前 312 年～64 年      | セレウコス朝時代<br>楔形文書ルネッサンス<br>最も新しいギルガメシュ叙事詩写本                                                                   |

ギルガメシュ叙事詩にみる死生観と友情

＜シュメル語のギルガメシュ伝承＞

1. 『ギルガメシュとアッカ』
2. 『ギルガメシュとフワワ』
3. 『ギルガメシュ, エンキドゥ, 天牛』
4. 『ギルガメシュ, エンキドゥ, 冥界』
5. 『ギルガメシュの死』

＜アッカド語版『ギルガメシュ叙事詩』＞

- ・ 前 1800 年頃, 上記 2. 3. を資料にして『他の王たちにまさる者』と呼ばれる古バビロニア版が成立.
- ・ 前 1400 年頃, ヒッタイト語翻訳版
- ・ 前 1200 年頃, アッカド語標準版が成立. これが基本的に前 3 世紀まで流布.
- ・ 前 800 年頃, 新アッシリアにおいて第 12 の書版からなるニネヴェ版となる.

＜『ギルガメシュ叙事詩』の粗筋と物語の構造（ニネヴェ版による）＞

- (1) ギルガメシュとエンキドゥの出会い（第 1 ～第 2 の書板）
- (2) 「香柏（＝レバノン杉）の森」への遠征（第 3 ～第 5 の書板）
- (3) イシュタルと「天牛」（第 6 の書板）
- (4) エンキドゥの死（第 7 ～ 8 の書板）
- (5) 「不死の生命」探究の旅（第 9 ～第 11 の書板）
- (6) 冥界における死者の運命（第 12 の書板）

＜死生観＞

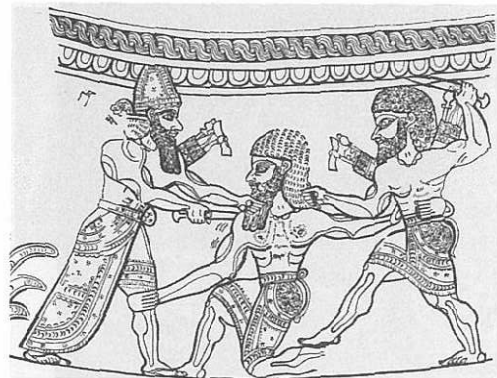
- (1) 英雄的人生観
- (2) 死の恐怖と永生希求
- (3) carpe diem（「その日を楽しめ」） 但し, 古バビロニア版のみ
- (4) 神々を祀ることによる不慮の死（immature death）の回避
  - 叙事詩はこれらのいずれをも絶対視しない. ならば, 死を避け得ない人間の死後の運命はどうなるのか？
  - シュメル語伝承（上記 4.）に基づく第 12 の書版の付加.

＜友情＞

旧約聖書サムエル記におけるダビデとヨナタン

ホメロス『イーリアス』におけるアキレウスとパトロクロス

参考文献：月本昭男訳『ギルガメシュ叙事詩』（岩波書店、2007 年、11 刷）



13(左上) フワワ(フンババ)を撃つギルガメシュ(左)とエンキドゥ。ルリスタンの青銅製長杯の打ち出し文様(前二千年紀後半)。ベルリン、原始・初期歴史時代美術館蔵。

14(左中) フワワ(フンババ)を撃つギルガメシュとエンキドゥ。テル・ハラフ出土。前900年頃。ボルティモア、ウォルターズ美術館蔵。

15(左下) フワワ(フンババ)を撃つギルガメシュ(左)とエンキドゥ。新アッシリア時代の円筒印章。ベルリン、古代近東美術館蔵。



8(上右) 格闘する二人の男性(第二の書板第2欄48行参照)。古バビロニア時代のテラコッタ。ルーヴル美術館蔵。

9(上左) 武器を持つ二人の勇士(第四の書板第6欄35行参照)。古バビロニア時代のテラコッタ。ルーヴル美術館蔵。

10(右下) 新アッシリア時代の浮彫に描かれた「香柏」の森。ルーヴル美術館蔵。

11(左) 香柏の森の「守り手」フワワ(フンババ)の面(第二の書板第6欄39'-40'行)。古バビロニア時代のテラコッタ像。大英博物館蔵。

12(下) フワワ(フンババ)を撃つギルガメシュとエンキドゥ(第五の書板第4欄w14'行以下)。古バビロニア時代のテラコッタ。ベルリン、古代近東美術館蔵。





19(右)「天牛」をしとめる英雄(第六の書板第5欄1行以下参照)、古アッカド時代の円筒印章、ダマスカス博物館蔵。



20(上)「天牛」をしとめる英雄。中央には鳥に乗るエタナ(解説362頁参照)、古アッカド時代の円筒印章、ダマスカス博物館蔵。



21(上) 鬘を結った女性から灌漑を受けるイシュタル(第六の書板第5欄16行参照)、玉座には侍獣のライオンが描かれる。古アッカド時代の円筒印章、個人蔵。

22(下) 猛鳥イム・ドグド(=アンズー)(第七の書板第4欄18行参照)、ウバイド出土、前三千年紀初頭、大英博物館蔵。



16(上) 香柏材を運ぶ舟(第五の書板第6欄w9'行参照)、新アッシリア時代の宮殿石壁の浮彫、ルーヴル美術館蔵。

17(右) 愛と戦いの女神イシュタル(第六の書板第1欄6行参照)、ライオンはイシュタルの侍獣。古アッカド時代の円筒印章、シカゴ・オリエント研究所蔵。



18 王の前で奥処を露にする女神、ギルガメシュを誘惑するイシュタルを連想させる(第六の書板第1欄7行参照)、前1700年頃のシリア型円筒印章、ニューヨーク、P. モーガン図書館蔵。



25(上) ライオンの毛皮を被ったアッシリアの道化。ギルガメシュもこのような姿でさまよったのであろうか(第八の書板第3欄7行ほか参照)。新アッシリア時代の宮殿内石壁の浮彫。カルフ出土。大英博物館蔵。

26(右) 下半身は獣で、鷲の足をもつ蠍人間(第八の書板第2欄6行参照)。中期バビロニア時代の「境界石」の一部。大英博物館蔵。



23 ハムラビ法典碑に刻まれた、ハムラビから崇敬の礼を受ける太陽神シャマシュ(右)。古バビロニア時代。ルーヴル美術館蔵。



24 マーシュ(「双子」)の山から昇る太陽神シャマシュ(第八の書板第2欄1行以下参照)。両肩からは光が出、手にはマーシュの山を切り分ける鋸を持つ。古アッカド時代の円筒印章。ルーヴル美術館蔵。

# MEMO